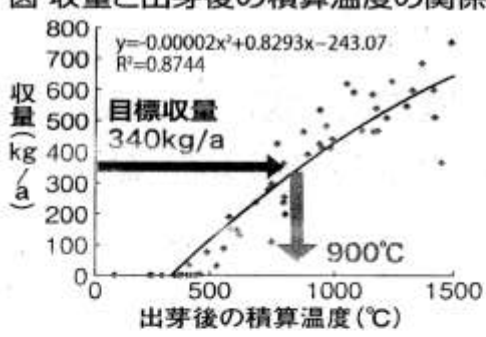


図 収量と出芽後の積算温度の関係



$y = -0.00002x^2 + 0.8293x - 243.07$
 $R^2 = 0.8744$

目標収量 340kg/a
 900°C

収量 (kg/a)
 出芽後の積算温度 (°C)

県内の春作バレイシヨ栽培ではマルチ栽培が主要な作型となっており、県農林技術開発センターでも、マルチ栽培による各

春作バレイシヨ

積算温度900度で 10^{アル} 収量3.4 トン

N対P対K 14対11・2対8・4)から、収量性と気象条件との関係について解析し、気象条件から作柄を予測することが可

(県農林技術開発センター 坂本悠)

種試験を実施しています。そこで、これまでの春作マルチ栽培における試験成績(植付時期 1月下旬、施肥量(キ/10ア)

能か検討しました。

収量性と気象条件(出芽期からの積算温度、降水量、日照時間)について相関分析したところ、収量性と積算温度との相関が最も高いことが分かりました。一方、収量と積算降水量との相関は最も低く、その原因としてマルチを被覆した畦内では土壌水分が安定しているため、降水量に影響されにくいと考えられます。

これらのことから、出芽期からの積算温度を計算することで、作柄や目標収量を得られる収穫期を予測することが可能となりました。県農林業基準技術における目標収量3400キ/10アを確保できる積算温度について、図に示した回帰式を利用して計算すると約900度となります。